

平成 27 年(2015 年) 2 月 26 日
SNW・SNW 東北 矢野歳和

アンケートまとめ報告 「学生とシニアとの対話 in 東北大学 2015」

日時： 平成 27 年(2015 年) 2 月 2 日 (月) 12:00～18:00

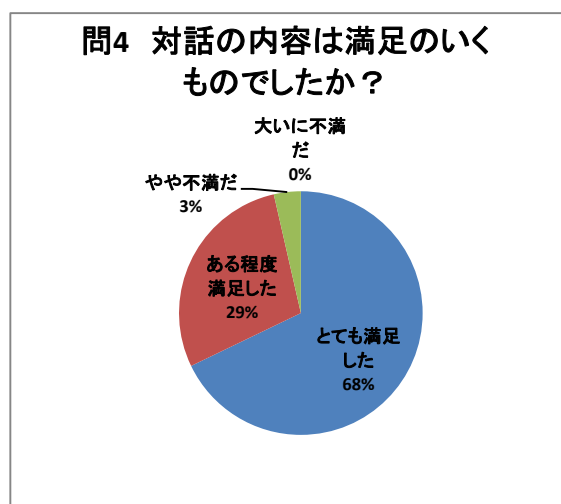
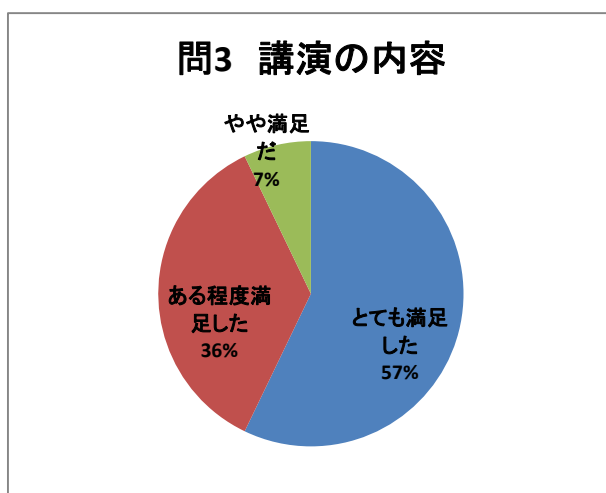
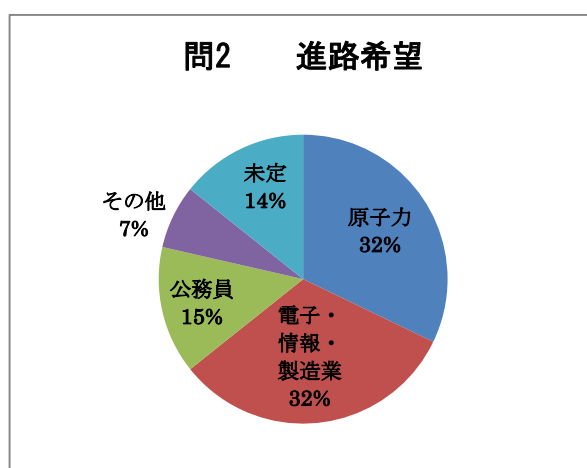
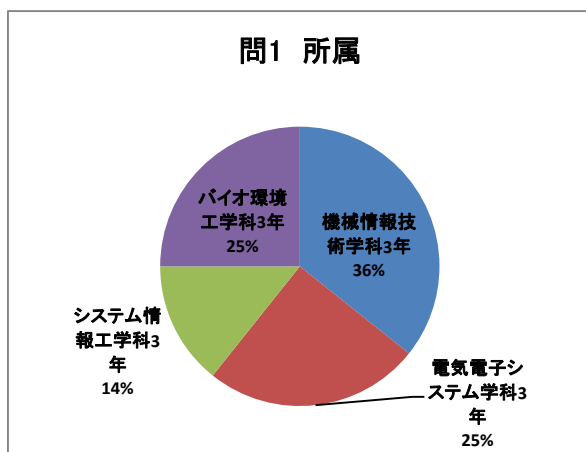
場所： 八戸工業大学

参加学生：3 年学生 32 名

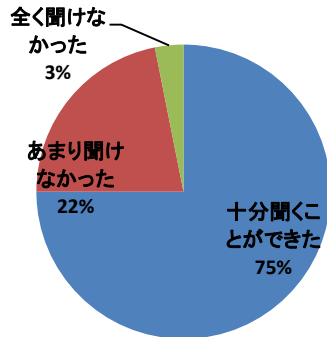
アンケート結果

(1)学生母集団の所属：学生は原子力の科目を履修した 3 年生で機械情報技術学科 10 名、電気電子システム学科 7 名、システム情報工学科 4 名、バイオ環境工学科 7 名の計 32 名

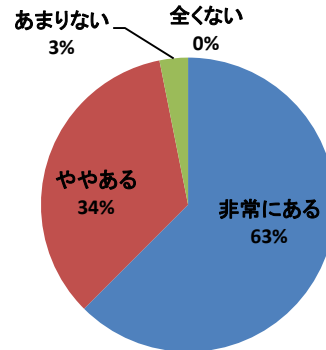
(2)希望就職先： 原子力関連が 32%、製造業を含む企業が 32%、公務員が 15%、未定が 14%であるのはこれから就職活動が開始するため。



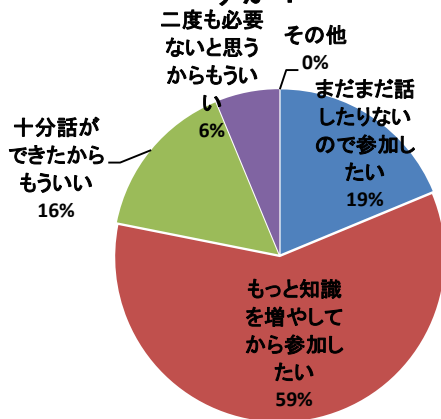
(5) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？



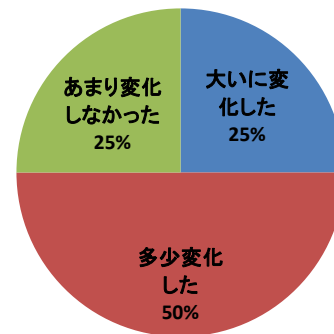
(7) 「学生とシニアとの対話」の必要性についてどのように感じますか？



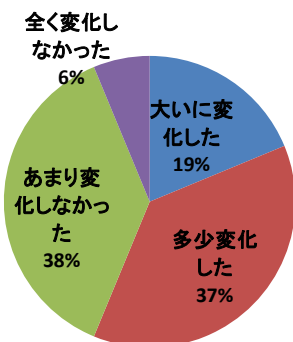
(9) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思えますか？



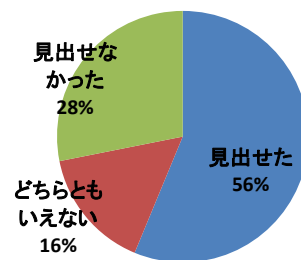
(11) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

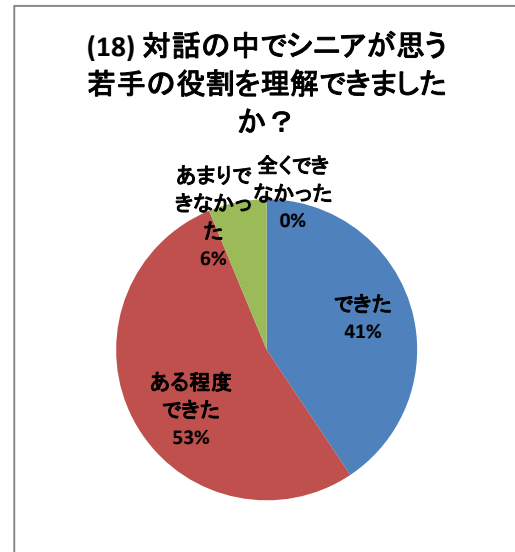
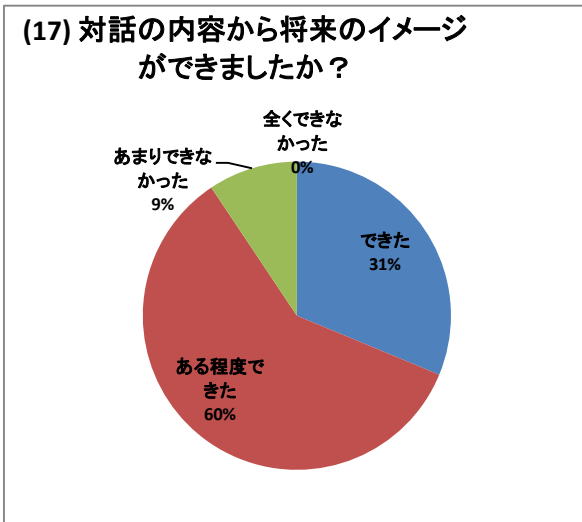


(13) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？



(15) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？





(3) 講演の内容は満足いくものでしたか？

とても満足とある程度満足の合計が 93%あり、講演は成功であった。特に専門家から直接に生のデータを交えて聞くことができなの良かった。

(4) 対話の内容は満足いくものでしたか？

十分満足およびある程度満足の回答が合計で 97%あり、対話の効果が確認できた。

(5) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分満足およびある程度満足の回答が合計(4)と同様に 97%あり、対話は成功だったと考えて良い。

(6) 今回の対話で得られたことは何ですか？

原子力発電の視野を広げることが出来た、より深い原発の理解、東日本大震災での女川原発の例など日本の技術力を肯定的に考えている。一方、原子力の世論のイメージ、マスコミ等の理解が不十分、原子力産業のメディアからの扱われ方などに疑問を持っている。また、肯定と否定の両方の視点から考えてみる、安全性についてリスクを考えるなど冷静な視点も持っている。

(7) 「学生とシニアとの対話」の必要性についてどのように感じますか？

対話の必要性をたいへん肯定的に捉えている。シニアの長年の知識の蓄積、様々な角度から原子力発電を捉え、的確に答え、ネットの情報とは違った信憑性がある、知識の正確性、情報としても恐ろしい程に伝搬力と説得力が強いなど、社会を背負って生きてきた実像に信頼感を寄せている。

(9) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

「もっと知識を増やしてから参加したい」という回答が圧倒的に多く、これ

も学生の向上心の表れと捉えて良い。

(11)エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？ (13) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？

大いに变化したとの回答は素直に啓蒙を受け人であり、多少变化したとの回答は以前からエネルギー危機意識を持っている人が多いためである。原子力工学を履修する人は基本的にエネルギー危機意識が強く、シニアの方々との対話はそのバックボーンを補強したと考えるべきであろう。

(15) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？

関連があると回答したのは約半数であるのは、4つの専攻の学生が単位として原子力工学を履修しているためで、直接に原子力工学を専攻していないことによる。逆に言えば科目があるだけでも、原子力への理解が大いに進むと考えられる。

(17) 対話の内容から将来のイメージができましたか？ (18) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？

ともに対話の効果があつたと考えられる。

(19) 自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？

考え方に違いはなかった、若手も安全性を理解し正しい知識を伝える、若い私達が挑戦していく必要がある、原子力が必要だとシニアの人たちと同じ意見、報道で嘘の情報が流れている、自分の思っていた役割とシニアの方が考える役割と同じ、原子力について日本全体が無知だったことに気がついた、今後の日本の行く末をより正しい選択にする為に若い世代に放射線や原子力の講義や教育が必要など、シニアの意図が伝わっている。

(20) 今回の原子力シニアとの対話に参加しての感想を記入してください。自由記述でよかった点だけでなく悪かった点や改善すべき点について教えて下さい。また、お昼（せんべい汁とおにぎり）のご意見。

シニアの人たちは喋りたがっている、シニアの人たち主体でやった方が老人にはいいなどと冷めたコメントもほんのごく一部にあつたが、反省すべき点があるにしても例外と捉えて良い。

しかし全体的に 90%以上はシニアとの対話に好感を持っている。シニアと対話して自分の考えがまとまった、TVやメディアが伝えない大量の事実を僕たち若者が伝承して行く、こういう機会があつたら是非参加する、いろいろな経歴を持つ経験豊富な話が刺激になった、持論は筋が通りとても魅力的、モヤモヤを取り払ってくれた、企業見学では聞けなかった事も聞く事ができた、研修の時以上に詳しい話を聞く事ができた、堂々とした佇まいや知的な言葉使いが

かっこいいと思った、社会人になる私の理想の人間像が見えたなどと絶賛された。シニアはこれに奢ることなく対話を継続して真実を伝える活動は続けるべきと私は考える。

また反対派と賛成派にわかれての討論でエネルギー問題へ視野を向けるきっかけとするのが良いとの提言があった。

最後に、せんべい汁の味が濃かったとの評は、逆に地元ではもっと淡泊なのかと感じた。

所感

八戸工大での対話は東北大学と原子力専攻の学生と同様に、シニアの考え方が基本的にベクトルが合っている。逆に、他の学部や他の専門分野の学生、および一般の方との対話ではどの程度の乖離があるのか、その問題点は何かを検証することも並列して実施するのが望ましい。個人的な感想として、真実を基準に考える人の間にはあまり差がなく、マスコミの扇動的な論調や一部の反対派の問題点が浮き上がるのではないかとの推測できる。

以上